

第1回 温海地域審議会  
会議録（概要）

期日：平成18年2月14日（火）

場所：温海庁舎 大会議室

## 第1回温海地域審議会会議録（概要）

日 時 平成18年2月14日（火）午後1時30分～

場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

出席委員（五十音順）

安藤良博、伊藤欣司、齋藤金一、齋藤幸子、佐々木勘司、佐々木真人、佐藤一喜  
佐藤喜久子、佐藤重夫、野尻善喜、藤谷隆、本間儀左衛門、本間紀美子、本間健彦  
本間文夫、本間元幸

欠席委員

伊藤貢、本間栄、本間やよい

市出席者

鶴岡市長 富塚陽一

温海庁舎 支所長 五十嵐收一、次長 志田忠

企画観光商工課長 鈴木金右工門、総合相談室長 佐々木敏一

総務課長 川畑仁、税務市民課長 本間新一、健康福祉課長 本間節子

農林水産課長 五十嵐正治、建設環境課長 相沢康夫

教育課長 伊藤彦市、下水道課長 五十嵐金悟

本 所 総務部長 佐藤智志、政策調整室長 石澤義久、調整課長 石塚治人

政策調査課長 柴田昌明、主査 宮崎清男

次 第

1.開 会

2.市長あいさつ

3.委員紹介

4.会長・副会長の選出

5.合併後の状況について

6.説 明

(1)地域審議会の概要について

(2)新市建設計画の概要について

7.協 議

(1)今後の運営について

(2)その他

8.その他

9.閉 会

## 【会議の概要】

(辞令交付)

- 1.開会 (温海支所長)
- 2.市長あいさつ
- 3.委員紹介
- 4.会長・副会長の選出(会長 本間文夫、副会長 佐藤重夫)
- 5.合併後の状況について(温海支所長説明)
- 6.説明

(1)地域審議会の概要について(企画観光商工課長説明)

(2)新市建設計画の概要について(企画観光商工課長説明)

本間文夫会長 ただ今の説明に対して、質問等ある方ございませんか。

齋藤幸子委員 ただ今説明を兼ねて報告していただきましたが、初めてこの資料を今日見ることが出来まして、書いてある内容をざっと見ましたが、どこでどう質問したらよいか分からないような現状です。こういう資料はとっくの前に出来上がっていると思いますので、出来ることなら20人委員が決まっている段階で、何日か前でもこの資料を手元にお渡しいただければ、今日どう質問したらよいか考える時間も充分与えられたのではないかと思いますので、次回からぜひそのように検討していただきたいと思います。

本間文夫会長 皆さんもそのような考えだと思いますし、当局いかがですか。

五十嵐収一支所長 要らない心配をかけて申し訳ございませんでした。齋藤委員からありました意見に沿って、事前に配布できるように努力をしてみたいと思いますのでよろしく願いいたします。

本間文夫会長 他にご質問がありましたら。

富塚陽一市長 事務局、藤島の地域審議会ですらどういった質問が出たか紹介してください。

柴田昌明政策調査課長 先だつての藤島地域審議会では、ただ今説明した二項目についての質問はございませんで、合併に関連いたしまして、三川町との合併について、市長の考え方なりの質問が出されております。それから後ほどの協議となりますが、今後の協議会の持ち方について出されておりました。子どもたちの地域での安全や防犯協会の合併に際しての考え方ですとか、要望として、従来の藤島町で進めてきたエコタウンのまちづくりを全市的に進めていただきたいというような要望が出されております。それから、コミュニティの機能と申しますか、そういったものがこれからどのようになるか、機能の低下が懸念されるといった話題提起もされています。

富塚陽一市長 防犯協会の話がありましたが、これは民間の団体も合併に調子を合わせなければならないのかという内容でしたが、私の方からは、あくまでも行政のシステムの再編成であって、民間の方々はそれぞれの事情によって自主的にご判断ください。何でもかんでも一緒にしなければならないということ

もありませんし、それぞれにご判断をしていただきたいということをお願いしました。

それから地域ブロックの話ですが、各地区別の今後の対応ですが、合併するに際しましては、地域の特性を損なわないようにしなければならないという基本方針を持ってありますし、それと同時に一つの市となりましたので、市全体としては、このごろ国内的にも国際的にも競争が激しくなっておりますので、存在感のある力強い市だなというふうに思ってもらえるような、対外的に存在をアピールできるような市の運営をしていきたいということで、両様あいまって考えて進めていくということで、今回の予算もそう編成しました。なお、地区別のことになりますと、支所にも機構的には町長も助役も議会も無くなったものですから、その限りでは組織はスリム化しますけれども、同時にこの地域は今までやってきた仕事は仕事として、もう一つこれからの時代、パキッとした仕事、固有の課題を見つけることができないかなと、各地区に将来のことを含め、政策企画の費用を計上しました。一年間とにかく勉強をしてもらう。温海は温海でがんばってこられたことは確かだし、それで十分と言えば十分ですが、せっかく新市になった訳ですので、もっとあるかもしれない。あるものは出してみる。そういうことを中心にして、この地区の将来を力強く育てていくというような配慮をしています。

皆様方には随時ご意見をいただく。齋藤委員のおっしゃるとおり、今何かと言われても容易でない訳で。これも事務局の立場から言えば、辞令をやっていない人に資料をやるわけにいかなかったのですが、大無調法でした。お詫びしますが、これから良く見ていただいて、随時ご発言、ご指摘いただきますようよろしくお願いいたします。

本間文夫会長 どうですか皆さん。

佐藤重夫副会長 今、新市の建設計画の概要について説明があった訳ですが、この建設計画の内容などは、住民の方にどのようにお知らせしていくのですか。

鈴木金右工門企画観光商工課長 これまでも総合計画などにあるものは広報などで各住民にお知らせしておりますし、地域審議会についても公開といたしておりますし、その概要についても広報などでお知らせしていきます。新市建設計画の概要版については、全戸配付しております。

本間文夫会長 他にご意見・ご質問がありましたら。

本間儀左衛門委員 これはニュアンスの問題かもしれませんが、新市建設計画の38ページであります。「世界に誇る歴史文化資源であります出羽三山地区については...」、世界遺産についてであります。ぜひ積極的にお進めいただきたい。トーンとして少し弱いかなと思いますものですから、あえて強く要望させていただきます。登録の可能性を追求しつつということではありますが、ぜひ強力に、ある意味我々地域の間人が出羽三山に対する勉強と合わせて、どういった効果、影響をもたらすのかという事を十分に斟酌して、この運動を積極的に進めていただきたいということでもあります。旧市の湯野浜、湯田川とともに三温泉で仲良くやりながら、これから建設的な議論をしよう、昨日話し合いを

したところですが、第一回のテーマが「世界遺産」ということであります。我々として懸念している事は、県の統一世界遺産候補地として2015年登録を目指すということになっておりますが、2014年に北陸新幹線が供用を開始いたします。北陸地区が持つ文化の厚み、歴史の厚み、金沢がっております圧倒的な知名度ということから考えていきますと、ある意味で観光面だけでなく、この地区と中央とのしっかりした足回りを確保していくという意味で、大きな懸念として意識していかなければならないのではないかと。極端な意見として「新潟県の空洞化が進む。越後湯沢以降、新潟新幹線は要らない」と言う方もいらっしゃいます。まずは世界遺産、出羽三山というものをしっかり勉強していきながら、地域の活力を維持していく。中・長期的に次の世代のために中央との足回りをしっかり確保していくことも含めまして、このことについては、強力に押し進めていただきたい。

本間文夫会長 ただ今の本間委員の発言に対して当局。

富塚陽一市長 おおせのとおり、県でもしっかりとがんばっております。ただ、そう簡単な話ではないという事が伝わってきますので、これからはしっかりとがんばっていかねばならないと思います。それから、羽越新幹線のお話がありました。要らないという話は我々少しも考えておりません。ただ、現実の問題として羽越線の活用をもっとし易い環境にするということで、即可能なものは在来線の高速化だろうということで、新潟県知事、新潟市長、並びに山形県知事と我々で協議しながら、新潟の駅舎の改造をして、乗り換えを同一ホームでやり、スピードを上げられるように。残念ながら今回、列車転覆事故がありましたので、その限りでは我々も哀悼に耐えないところもございますし、安全対策は完璧にやってもらうという事を前提にしてですが、これからは十分努力してまいります。住民皆様のお声も重要なエレメントでありますので、よろしく願いいたします。

本間文夫会長 本間委員、いかがですか。

本間儀左衛門委員 一応、極論としてお話ししましたが、東京から高崎、越後湯沢以降、上越新幹線が最終の新潟まで行く本数が極端に減っております。そこから先はもう上越新幹線は要らないという議論があるということで申し上げました。よろしく願いします。

本間文夫会長 他にないようでしたら次に進みます。

## 7. 協議

### (1) 今後の運営について

本間文夫会長 それでは、協議事項に入ります。今後の協議会の運営について、ご意見ございましたらお願いします。

(委員より発言なし)

本間文夫会長 それでは事務局より。

鈴木金右衛門企画観光商工課長 地域審議会の今後の運営の考え方を述べたいと思います。新市建設計画の執行状況については、毎年時期を定めて、地域

審議会に事業の執行状況及び今後の予定等について報告するなど、当面諮問という形ではなく、委員の方々からご意見を伺うという形で、毎年度同様の時期に審議会を開催し、協議、ご意見をいただきたいと考えております。

また、地域審議会の開催時期については、「年何回」というふうに固定するものではなく、各地域審議会での判断になるものと考えております。地域課題等を顕在化するためには、地域審議会において協議、意見交換を深めることが必要と思われるので、各地域審議会の協議状況によっては、審議会の開催回数が、年数回という考え方で進めさせていただきたいと思っております。

本間文夫会長 ただ今の説明で、何回というふうには決まっていらないそうです。年数回ということですので、次回の日程等についてはこちらに一任させていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。

(委員より異議なしの声)

本間文夫会長 次の会議の運営の参考にしていただくため皆さんのご意見を伺いましたが、なければ当局と相談しながら次の開催を決めたいと思っております。

## (2)その他

本間文夫会長 その他について、委員の皆さんからありましたらお願いします。

本間儀左衛門委員 確認とお願いということで申し上げます。平成22年以降に日東道の鶴岡～温海間が供用開始するということで、前町長さんの時代から、この鶴岡～温海間が供用開始になって、インターの名前については、JRのあつみ温泉駅と同じ表示にさせていただきたいという要望を出しております。これは前町長さんの時代から我々の悲願であります。ただ、道路公団鶴岡事務所の方々にそういう話題を出しますと、今まで特定の地域の温泉名まで入ったインターの名前はないということでありました。大変難しい状況ではありますが、道路公団も民営化になったということで、「あつみ温泉」がインター名で認められれば、全国で初めてになると思われまので、ぜひ強力にお願いさせていただきたいという事が第一番目でございます。

それから、二番目であります。休耕田に豆腐豆を植えられませんかということで、かつて話題にしたこともありましたが、最終的に私どもの旅館で使っているものが旧温海町外の業者とのお付き合いが一番多かったものですから、いろんな事情で断念した経緯がありますけれど、やはり今、地産地消ということで当局の方からもいろんな提案をいただいております。奥田シェフによります料理の勉強会等、今まで在ります在来の食材について、新しい切り口でということで、大変良い機会を与えていただいております。ある意味で新しく素材を開発していく、また自分たちが作っているもの、お客様に提供しているものをこういうものがあるよと売り込んでいただくのと合わせて、日本旅館の献立に豆腐料理は欠かせない、豆腐そのものの材料を作ってくださいという発想があって良いのではないかと。かつて大沼デパートの落合専務さんから提案をされたことでもあります。今、辰巳芳子さん(料理研究家)という方がいらっしゃいますが、学童の方々に「豆100粒運動」というものを提唱

されておられます。学童の方々に実際に豆を植えてもらい、それを食してもらおう。食育の一環であるということで、長野、岩手方面で既に7千人からご協力いただいているということでもあります。ある意味で地産地消を進めていくうえで、実際に我々が使っている材料を作っていく。休耕田の割合が3分の1まで進んでいるということでもありますから、庄内に空港でお出でになった方々に聞きますと、圧倒的な緑のボリュームの多さに圧倒されるというお話を伺いますが、やはり田や畑が荒れている現状で我々旅館側としてもこういう厳しい経営環境の中にありまして、実際に今使っている材料を作るということであるならば、今現在やっていただいておりますいろんな地産地消よりも更にご協力を申し上げられる。農林水産関係の補助金だけでなく、ある意味教育面でもこういったものは取り上げられて然るべきかなというふうに思いますものですから、豆腐豆を休耕田に作りませんかということを提案させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

本間文夫会長 　ただ今、二つの提案がありました。当局で検討させていただきたいということでございます。

　その他、ございませんか。ないようでございますので、これで本日の協議は終了させていただきます。

8. その他

9. 閉会　　（午後3時7分　終了）